

Block 1-4期 ティートリアル課題 4

# 「気になる隆起」

(細胞の異常増殖)



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意下さい。

TWMCBLOCK1-4

May. 1997

第一病理学教室 小林 慎雄

和子さんの父親は、職場の健康診断でうけた上部消化管 X 線検査の結果、  
胃粘膜の隆起性病変を指摘され、精密検査を受けることになりました。

シート 2

1997-B1-T4 気になる隆起

内視鏡による病変部の病理組織学的検査で、悪性と診断されました。

以前、和子さんは手指の皮膚にいぼができて、皮膚科を受診したところ、医師からウイルス感染が原因で、表皮におきた細胞の増殖であると説明され、治療を受けました。その後、再発はみられていません。本を調べてみると、ウイルス感染は癌の原因にもなることを知り、不安をかくすことができません。

[検討]

ウイルス感染が原因で表皮の細胞が増殖することにより、疣贅（いぼ）や皮膚がん（癌）の原因となる。本症は手指の皮膚に発生した疣贅（いぼ）であり、ウイルス感染が原因であると考えられる。再発はみられていないが、ウイルス感染は持続性があるため、定期的な検診が必要である。

[出典説明]

本症は手指の皮膚に発生した疣贅（いぼ）であり、ウイルス感染が原因である。再発はみられていないが、ウイルス感染は持続性があるため、定期的な検診が必要である。

1-1-1

本症は手指の皮膚に発生した疣贅（いぼ）であり、ウイルス感染が原因である。再発はみられていないが、ウイルス感染は持続性があるため、定期的な検診が必要である。

1-1-2

本症は手指の皮膚に発生した疣贅（いぼ）であり、ウイルス感染が原因である。再発はみられていないが、ウイルス感染は持続性があるため、定期的な検診が必要である。

1-1-3

本症は手指の皮膚に発生した疣贅（いぼ）であり、ウイルス感染が原因である。再発はみられていないが、ウイルス感染は持続性があるため、定期的な検診が必要である。

1-1-4

本症は手指の皮膚に発生した疣贅（いぼ）であり、ウイルス感染が原因である。再発はみられていないが、ウイルス感染は持続性があるため、定期的な検診が必要である。

1-1-5

本症は手指の皮膚に発生した疣贅（いぼ）であり、ウイルス感染が原因である。再発はみられていないが、ウイルス感染は持続性があるため、定期的な検診が必要である。